

## 令和4年度学校教育自己診断結果分析

令和4年度については、資料配付による回答から Googleform による回答に変更して実施した。その結果、回答率は

生徒：95.8% → 87.0%

保護者：86.9% → 31.1%

教職員：100% → 100%（休職教職員等を除く）

となった。特に保護者で低い数値となっている。案内文書は、保護者宛親展で生徒に配付し、家庭へ持ち帰るようにした。しかし、実際には回答率が低下した。原因としては、

- ・従来とは異なる形で実施したこと
- ・一定の期間を設けたことにより、手元があれば回答を推進したかもしれないが、時間とともに回答の意識が薄れてしまった
- ・生徒については、HRで一斉に実施し1人1台端末を活用したが、当日忘れた生徒に対する事後指導が十分行き届かず、回答率を下げの一因となった
- ・教職員は、それぞれ声掛けをすることで、100%の回答となっている

### 【学校選択】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	入学してよかった	△2.7	80.9	78.2
保護者	入学してよかった	△7.9	86.1	78.2
教職員	入学してよかったといっている	△8.9	66.1	57.2

全ての項目で上昇しており、特に保護者・教職員で大きく増加している。生徒・保護者は80%を超える数値であるが、教職員は65%程度に留まっている。生徒との関わりの中で得られるものであるため、担任と担任外では受けているイメージが異なるのが原因と考えられる。全体での関わりを更に大きくして、より意識を掴めるようにする必要がある。

### 【学習に関すること】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	授業はわかりやすい	△6.9	67.5	60.6
	少人数授業はわかりやすい	△12.6	74.6	62.0
	成績はさまざまな観点でつけられている	△6.3	83.5	77.2
	家庭学習時間が増えた	△7.7	51.5	43.8
保護者	授業が分かりやすいと言っている	△11.2	68.6	57.4
	少人数等で学習意欲が高まっている	△11.9	67.8	55.9
	家庭学習時間は増えた	▼1.7	43.9	45.6
	成績はさまざまな観点で評価されている	△8.8	83.0	74.2
教職員	少人数授業は生徒に合っていて理解できるようになっている	▼11.1	49.2	60.3
	魅力ある授業になるように工夫・改善している	△3.7	84.7	81.0
	家庭等での学習時間が増えるよう指導している	△8.9	70.8	61.9
	成績はさまざまな観点で評価している	△2.0	90.8	88.8

少人数授業については、教職員で大きく低下している。新学習指導要領が変更となり、学び方や学ぶ姿勢も変わっていることから、少人数指導の在り方も検討する必要がある。半面、生徒や保護者における少人数授業の反応は大きく増加した。また、教職員では授業の指導・改善を進めており、授業の分かりやすさも改善している。家庭学習時間については、教職員では増えるように指導しているが、実際には大きく増えているとは言い難い。更に方法を探る必要がある。

【進路に関すること】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	考える機会が多い	△5.7	90.5	84.8
	適性或将来を考えるようになった	△4.5	73.1	68.6
保護者	考える機会が多い	△6.4	80.7	74.3
	適性或将来を考えるようになった	△5.7	59.6	53.9
教職員	適性或将来についてよく考えるようになった	▼5.2	61.5	66.7
	興味・関心・適性によって進路選択できるよう指導している	▼2.7	66.1	68.8

生徒及び保護者に関しては、概ね高い数値となっている。反面、教職員については、減少している。あわせて「わからない」と回答する割合が増加しているため、教職員全体が関心を持って進路に向けるような工夫をしていきたい。また、進路の適性或将来について考えるようになったとする割合は、生徒・保護者とも数値が増加しているものの、やや低めの数値である。科目選択とあわせて、将来について積極的に考えて行けるような取組みも考えていきたい。

【人権に関すること】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	学ぶ機会がある	△8.6	91.0	82.4
保護者	豊かな心を育てようとしている	△2.7	63.2	60.5
	人権尊重の姿勢で指導している	△3.9	63.6	59.7
教職員	人権を尊重する意識を育てようとしている	△0.8	75.4	74.6
	人権尊重の姿勢で指導している	△3.9	76.9	73.0

人権について学ぶ機会については、生徒で90%以上となっているため、全校人権学習等、一定の効果をあげていると考えられる。しかし、保護者による「豊かな心を育てようとしている」「人権尊重の姿勢で指導している」とする割合が65%を切っている状態である。要因の一つとして、取組みに関する情報発信の不足があげられる。昨今の課題であるジェンダーについても意識した取組みを推進していきたい。

【教育相談に関すること】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	担任の先生以外でも気軽に相談できる	△11.4	75.3	63.9
	いじめなど困っていることに真剣に対応してくれる	△11.6	55.7	44.1
保護者	保護者の相談に応じてくれる	△4.4	55.6	51.2
	いじめなど困っていることに真剣に対応してくれる	▼2.4	35.0	37.4
	担任の先生以外に気軽に相談にのってくれることを知っている	▼5.5	53.3	58.8
教職員	担任以外の教職員に相談できる	▼5.6	76.9	82.5
	いじめの際の体制が整っていて迅速に対応できる	▼5.4	70.8	76.2

保護者に関しては全ての項目で低い数値となっている。特にいじめに対する対応であるが、実際に本校でいじめが生起している実態がないことが要因で低い数値になっていると考えられる。そのため、いじめに対する取組みなどの周知の方法を更に考えていく必要がある。教育相談に関しては、生徒回答から、75%以上さまざまな先生に相談できるとされている。今後も高い数値を意識して、生徒が相談しやすい環境を維持していきたい。

【生徒指導に関すること】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	生徒指導方針は理解できる	△9.9	65.2	55.3
	ルールや生き方について考える時間がある	△10.6	75.8	65.2
保護者	生徒指導方針は理解できる	△2.6	66.8	64.2
教職員	生徒指導方針は生徒・保護者に理解されている	△9.1	63.1	54.0
	生命を大切にする心やルールを守る態度を育てている	△13.2	86.2	73.0
	カウンセリングマインドを取入れた指導をしている	△8.9	73.9	65.0

生徒指導方針の理解度は、大きく上昇している。しかし、数値は70%に届いていないことから、更に方針理解に向け、細やかに指導していく必要がある。ルールやマナーについては、学ぶ機会を設けていることから、生徒の結果でも75%以上と大きく伸びた。更に機会を作って、他者理解に繋げていきたい。

【学校運営】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	科目選択はきめ細かく適切である	△4.7	76.4	71.7
	科目選択が自分の将来に合わせて選べるのが魅力である	△3.5	85.6	82.1
	生徒の意見をよく聞いてくれる	△10.7	75.3	64.6
	教育方針や経営方針を分かりやすく伝えている	△0.6	47.3	46.7
	校長の話は分かりやすい	△7.2	57.4	50.2
保護者	科目選択はきめ細かく適切である	△5.7	70.9	65.2
	科目選択は進路に合わせて選べるのが魅力である	△1.2	86.7	85.5
	教育方針や経営方針を伝えている	▼0.4	57.9	58.3
教職員	科目選択はきめ細かく指導している	▼6.8	66.2	73.0
	科目選択は、進路の興味に合わせて選べるのが魅力である	▼13.0	60.0	73.0
	生徒の意見をよく聞いている	△0.8	75.4	74.6
	教育方針や経営方針を分かりやすく伝えている	△4.5	60.0	55.5
	評価を行い次年度の経営計画にいかしている	△4.2	67.7	63.5

科目選択については、総合学科の魅力の一つであるが、生徒及び保護者では数値も増加し、魅力として映っている。指導の満足度については、更に伸ばしていきたい。教職員では、科目選択に関する項目は大きく低下している。生徒の主体性を意識しながら、生徒の進路希望に添えるよう、更なる科目選択をする際の工夫が必要である。

### 【情報伝達】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	奨学金の情報は十分である	△17.5	70.3	52.8
	HPで必要な情報が得られる	△4.0	48.4	44.4
保護者	家庭への連絡がきめ細かい	▼3.7	50.6	54.3
	教育情報など積極的に提供の努力をしている	▼2.0	60.1	62.1
	HPで必要な情報が得られるようになっている	▼3.9	59.7	63.6
教職員	家庭への連絡はきめ細かく行っている	▼3.9	73.9	77.8
	HPは生徒・保護者が必要な情報を得られるようにしている	▼5.1	60.0	65.1

情報伝達については、特にHPの活用において低い数値となっている。HPの体裁も含めて、必要な情報を的確に得られるような工夫が必要である。また、家庭連絡については、教職員では数値は下がっているものの、75%近くきめ細かく行っていると考えているが、保護者では50%程度と、連絡が十分であると考えている割合は少ない。プリント配付による連絡も、保護者の手元に届かないケースもあることから、伝達方法について一考の余地がある。

### 【国際理解・ボランティア】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	国際理解やボランティアについての学習機会がある	△6.9	48.7	41.8
保護者	国際理解やボランティアについて学ばせようとしている	▼2.1	40.3	42.4
教職員	国際理解やボランティア等について学ばせている	△6.1	56.9	50.8

生徒及び保護者とも50%以下の数値となっている。生徒は、昨年度に比べるとある程度伸びてはいるものの、海外研修が実施できず、かつ台湾への修学旅行も実施できていない状況のため、大きく影響している。反面、国内でのイングリッシュ・キャンプについては、内容も充実しつつある。参加者数については、依頼できる留学生の数等にも制限があるため、一定数以上にできないのが残念である。今年度も、年度末に海外研修は計画したが、円安の影響により実施を断念せざるをえなかった。インターネット等を活用した海外との交流を今後考えていきたい。

### 【学校行事】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	学校行事に積極的に参加している	△7.0	85.6	78.6
保護者	学校行事に積極的に参加しようとしている	△6.5	83.9	77.4
教職員	魅力あるものとなるよう工夫・改善している	△8.2	78.0	69.8
	学校行事に積極的に参加している	△17.7	90.7	73.0

学校行事については、新型コロナウイルス対応による制限が少しずつ緩和することで、意識が上向いていることがわかる。今後、更に制限がなくなることで、より行事に参加する積極的な姿勢や、主体的な行動を継続的に育てていきたい。

### 【生徒会活動】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	積極的に参加している	△4.5	58.0	53.5
保護者	積極的に参加している	△3.0	47.1	44.1
教職員	積極的に参加している	△4.5	56.9	52.4

生徒会活動は、数値は伸びているものの、50%前後と低い数値になっている。生徒の主体的な活動や、行事への見える形での関わりが依然として少ないことが原因と考えられる。新型コロナウイルス感染症の影響で、過去の行事等を経験したことない中で、より生徒会が積極的に関わることで、活性化を図っていく必要がある。

### 【部活動】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	積極的に参加している	▼5.6	58.9	64.5
教職員	積極的に参加している	▼1.7	52.3	54.0

部活動については、年々低下している。部員数の低下や新型コロナウイルス感染症の影響もあり、コミュニケーションが育まれない中で生活してきた3年間で少なからず影響している可能性がある。部活動への参加の取組みや支援策を考えながら、活性化に向けて取組む必要がある。

### 【施設・設備】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	満足できる	△0.7	62.6	61.9
保護者	ほぼ満足である	△0.9	59.2	58.3
教職員	ほぼ満足できる	▼4.2	35.4	39.6

特に教職員の数値が低くなっている。一部トイレの改修が行われたが、エアコン未設置の教室や準備室などがあり、執務環境に大きな影を落としていることが要因と考えられる。限られた中での改修ではあるが、少しずつ取組むしか手がないのが現状である。身近な清掃活動を徹底することで、校舎を綺麗に保っていく必要があるため、清掃活動に力を入れていきたい。

### 【PTA活動】

該当	項目	変化	R4	R3
保護者	行事や授業参加に参加したことがある	▼1.7	46.6	48.3

PTA活動についても、制限のある中で行っているが、保護者の協力の中、何とか50%程度を維持している。今後は、参加型の取組みを少しずつ増加し、活動を活性化していきたい。また、授業参観日も毎年1度設定しているが、制限の中での来校であったため、大きな数値の伸びには繋がっていない現状がある。各種行事への来校者も同様である。今後、新型コロナウイルス感染症における制限が撤廃された中で、来校できる機会を多く持つことで、改善していきたい。

### 【1人1台端末】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	効果的に活用している	—	71.6	—

生徒の活用度は70%を超え、少しずつ定着しつつある。今年度は、3年生は1人1台端末が配付される以前に活用していた教育プラットフォームで対応したため、スマートフォンや携帯電話での活用が多かった。今後は授業での教職員の活用も徐々に増加していく中で、定着を図っていく。

### 【働き方】

該当	項目	変化	R4	R3
生徒	責任を持って仕事をしている	△11.3	74.0	62.7
教職員	働き方改革を意識して取組んでいる	△1.0	66.1	65.1
	日常的に教育活動について話し合っている	△15.0	76.9	61.9

働き方改革を意識した取組みの充実までは行っていない現状がある。生徒から見た教職員の動きは、責任感を持って行動していると映っている数値が75%程度と大きく伸びたのはうれしい限りである。今後は、より生徒に関われる時間を確保しつつ、働き方改革にむけて、施策を進めていく必要がある。

#### 【その他】

全般的な質問に対する傾向であるが、教職員の「わからない」とする割合が10%から多い場合には25%程度までにのぼっている。各分掌も含めて、各自が関心を持って学校の動きを見つめ、全員で理解を進めながら取組んでいくことが求められている。昨今、働き方改革が叫ばれる中、時間の効率的な利用により、資料配付で済ませてしまうケースもあるが、必要なことは十分時間を割いて取組み、学校が一致団結し「わからない」とする回答がなくなるようにしていきたい。

また、回答方法を変更したことで減少した保護者の回答数についても、次回は改善策を見出し、80%以上は回答が得られるようにしていきたい。